

2018

認定特定非営利活動法人 **Future Code**
活動報告書



Bridging to the future for global health

2019年 4月20日

Haiti

2018年4月－5月 無料結核検診

2013年6月から開始している住民無料結核検診を本年もレオガンのシグノ病院で開催しました。

結核ハイリスクの合計97人程を診察、7人を結核と診断し、治療しています。昨年より診断方法として従来の症状とレントゲンの組み合わせに加えてLAMP法を導入しており、高い精度での結核の診断が実現しており、治療へとつなげています。

例年通り、2012年に結核検診を日本でトレーニングしたパスカル医師、ジャッセン医師の協力があり、放射線技師、検査技師、事務員を含め皆がそれぞれの役割の中で、この6年目となる日本人とハイチ人の混合結核チームが効率的な健診を実現しています。今後も定期的な検診の開催を予定しています。



code

2018年4月－5月、12月 孤児院支援

首都近郊のいままでも訪れている孤児院では、現在約35人の孤児が生活しています。

神戸市内の飲食店さまを中心にご協力いただき、店内に設置してある FutureCode の募金箱のご支援を、子ども達の食料や鶏などに変えて現地に直接届けています。

ハイチ震災から8年が経過しましたが、その後のハリケーンの被害など、相次ぐ災害もあり、今でも状況の改善はなく、環境の厳しさは変わっていません。昨年度末(2月)に残念なことに、長年孤児院の運営を行っていた牧師が病気で急死し、その息子さまが現在の孤児院の運営を引き継ぎました。しかしながら国際的な支援は年々減少傾向にあり、現地での運営がうまくいかず、通常の我々の支援だけでは食糧難となりました。当初60名から80名の子どもが生活していましたが、この経営状況から35名まで受け入れ人数を減らしたものの、12月に3名の子どもが栄養失調となったとの報告があり、緊急食糧支援を行いました。

これからも日本とハイチの友好と信頼を、このような小さな助け合いの形であっても、大切にしていきたいと思います。



*以下は12月の緊急支援時





2018年5月 歯科検診

以前から継続して取り組んでいるハイチ小児歯科検診と治療の取り組みですが、今回は首都近郊の複数の孤児院で健診後に、歯に問題のあった15名の子どもたち治療を行いました。孤児院からの歯科治療の要望は高く、今後も定期的な歯科検診と治療を行っていく方針です。



FutureCode

Burkina Faso

2018年 4月～（2016年より継続中）マラリアの予防と啓発活動

2016年から開始しているマラリアの予防と啓蒙活動を今年も継続して行っています。6,7月頃よりマラリアを媒介する蚊が増えるのでこの時期からは特に力を入れています。ドア to ドアという手法を使い現地スタッフは一軒一軒、家を回り、蚊帳が適切に使われているか、破けていないかなど、細かにチェック項目を確認していきます。しかしながら、お金の問題などで、蚊帳を持っていない、また破けた蚊帳を使っていた人も見られたため蚊帳(ITNs)の配布も行っております。2018年6月からは、今まで対策を行っていたサンビ村に加えて、クーペンタンガ村でも活動を行うことになりました。このクーペンタンガはブルキナファソの中でも、川からの水が溜まるため特にマラリアの発生率が高いことで知られる場所です。現在、このプロジェクトでは二つの村を合わせて、2341名、751軒をカバーしています。マラリア予防対策の中心である蚊帳は、本来であれば3年毎に政府からの配布が予定されていますが、財政などの状況によって、配布が1年近く遅れることもあり、今回も配布はまだ行われていませんでした。しかしながらマラリアは乳幼児の命を奪う病気でもあり、この地域の乳幼児死亡率は10%近くにも上ります。この死亡率を下げるためにはマラリアが頻発するシーズンを迎える前に蚊帳を配布、使用する必要があります。しかしながら私たちの調査で、また蚊帳を所持していないことが判明した家もあり、損傷があり交換が必要な蚊帳も多く、それに対して新たに蚊帳を配布するなど11月から400基の蚊帳を配布しています。その結果、現時点で全ての家で蚊帳が適切に使用されており、マラリアの予防をより強化することができました。

その他、活動では住民のマラリアに対する知識の向上をはかるとともに、住民と共に、村にある溜まった水は処分し、必要な水が入っている容器には蓋をするなど、ボウフラが発生しない状況を作ることも継続して行っています。

活動をする中には、マラリアでなくとも、何らかの病気が疑われる子どもの相談なども受けることもあります。医療機関へのアクセスが悪い場所が多いため、現場でできる限りの診療を行い、治療の必要があると判断できれば病院での治療にもつなげます。

引き続き、現地スタッフと協力し、より細かなサポートができるようより一層の努力をします。

*蚊帳の配布と蚊帳の適正な使用を啓発





*クーペンタンガ村：川からの水が溜まっており、ボウフラからの蚊が通年大量に発生



*診療活動：症状を聞き、聴診や携帯型の超音波診断装置を使用



FutureCode

2018年4月～（2016年より継続中） 水と衛生の改善活動

昨年より開始している水と衛生活動を今年も引き続き行っています。乳児死亡の原因として、マラリアの他には水の衛生環境が悪いことなどからの下痢が大きな原因の一つです。

この地域には上水設備はなく、井戸水を生活に使用しています。

そこで各家庭で飲料水に適した水を選び、さらに水を貯める容器などにも蓋を取り付けるなど、衛生的な状況に保つ事を行っており、住民からも飲み水などがきれいになったと喜びの声も届いています。

また、この地域には適切な場所に衛生的なトイレがなく、これも井戸水を汚染してしまう原因と考えられます。住民からもトイレの建設の要望が出ており、昨年にトイレを10基建設しています。私たち外部の者がただトイレを建設して引き渡すのではなく、そこに住む彼らとともに手を借りて建設することで、今後もしトイレが壊れた場合でも彼ら自身の手で修理することもできます。そして地道な衛生指導活動を合わせて続けることで下痢疾患を減らし、乳児死亡率の改善へとつなげます。

衛生の改善効果だけでなく、村人からは「トイレは藪のなかでしていたが、今は畑になったせいで藪を見つけるのは遠くまで行かないとならなかった。今はトイレがあるので、すごく便利になった」との声もあり、この村の文化の中でもこのトイレもよく使用されるようになりました。まだまだ多くのトイレの建設の要望もあり、これからも必要に応じて建設も行い、住民の期待に応えたいと思います。

また、住民の知識の向上と理解も大切なことです。子どもと親が共に学ぶ機会を設け、啓発活動も行っています。

このように現地の人と共に現地の問題を改善していけるよう引き続き活動を続けます。

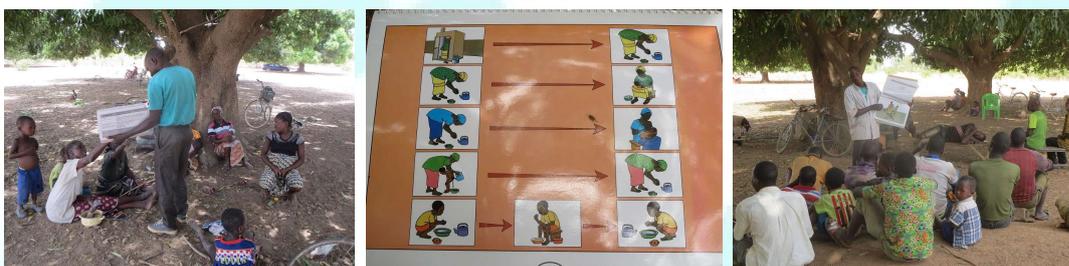
* トイレ建設の様子（2017年時）



* トイレ建設と使用の調査



* 村の住民への衛生教育やミーティング



2018年11月～ 幼児院の運営開始

ブルキナファソのピシィという村で5歳までの子どもの教育や給食を提供する幼児院を現地と協力しながら運営開始しました。最初にまず約40人の子どもを受け入れ、地元の先生と共に衛生を含む教育や、食事の提供を行います。また Future Code の特別プログラムとして定期的な子どもたちのヘルスチェックも行う予定です。この幼児院の壁には、子どもたち自らがデコレーションしてくれました。子どもたちの手形や、思い思いの色使いで、殺風景だった建物が暖かな印象に変わります。

このエリアにはこのような施設はなく、今までは何キロも離れた場所に行かなければなりませんでした。現地からの強いニーズもあり、話し合いを重ねた結果、現地と協力体制を組み、今回、開設に至り、共に運営していく事となりました。まだまだ多くの子どもたちがいる地域でもあり今後は運営の状況を見極めながら受け入れ人数も拡大していく方針です。

衛生教育や食事内容なども考え、少しでも子どもたちの健康にとっても、よりよい教育や環境を提供できるよう、確かな結果を目指し努力してまいります。



Bangladesh

2018年4月～（継続中） 孤児院診療とヘルスキャンプの開催

JT ファウンデーション シェルターハウス

この2年間ほど関わっている孤児院（JT ファウンデーション シェルターハウス）で子どもたちの定期健診を2018年7月、2019年3月に開催しました。主な目的は、新しく入った子どもたちの健康診断と、一年に一回の60人全員の健康診断です。ここのスタッフも、子どもたちももう私たちと顔見知り。私たちがどういうやり方をするのかも分かっているため、健診もスムーズに進みます。そして幸い大きな問題もなく終える事ができてます。

最後に子どもたちから、私たちが帰るときに、たくさんの笑顔と共に、元気なダンスまで披露してくれました。

この孤児院では、定期健診の提供だけでなく、栄養も含め、健康に関しては包括的なアドバイスや病気の際の診療の提供なども行っており、この一年でも栄養状態もより改善されています。しかしながら自覚症状のない病気が隠れていることもあり、また今回からはバングラデシュでも疑わしい状態の子どもに対しては、携帯型の超音波診断装置も使い、問題がないことを確認しています。



* 携帯型の超音波診断装置で追加検査



ecode

ロータリーデイ 2018 in ダッカ ヘルスキャンプに参加

バングラデシュ首都ダカで、10月に開催されたロータリーデイ 2018に、Future Codeは医療チームとして参加しました。このイベントでは私たちは主に子どもに対しての無料診療の提供を行い、問題があった場合にも薬なども提供されます。その他にもポリオの撲滅運動や、手洗いの啓発、またクリケットの大会まで数多くのイベントもこの会場で行われており、早朝からの開催であったにも関わらず、多くの市民も参加しました。イベントの最後は、メディアの取材陣も詰め掛ける中、参加した子ども達と共に、満員の会場で笑顔の集合写真を撮って終わりました。

啓発イベントとしても、この診療自体も、バングラデシュに少しでも貢献することに寄与できたならば幸いです。



11月にもこのようなロータリークラブ主催のヘルスキャンプは開催されており、参加要請があり、医療チームとして参加しています。この際は普段はなかなか病院に行くことができない一般の市民を対象として、簡単な健康相談から、会場のできる限りの診断と治療を行い、病院での検査や治療が必要な場合にも病院への紹介を含めて対応します。

子どもたちは主に風邪が多く、大人は高血圧、糖尿病の方々が受診しています。

定期的にこのヘルスキャンプは開催していく方針とのことであり、私たちも今後も継続して参加していこうと思います。少しでも医療を必要とする多くの方々が医療にアクセスできるように私たちも努力を続けます。

2018年4月～（継続中） キングストン病院での医療者育成とスラムへの

母子保健の提供

継続して活動しているこの病院ですが、なかなか現地スタッフの意識を良い方向に変えていくにも地道な努力と時間がかかるもので、以前からこの病院でも 5S のプログラムを導入しています。

現在、病棟で現地の医療スタッフが医師、看護師共に協力して、自主的にティッシュの空箱を使って病棟の整理整頓を進めています。現地駐在員の日本人看護師からも「彼らの変化がとても嬉しかった」という報告があり、これからも現地側と協力しながら進めていきたいと思えます。。



6月には、生後すぐの赤ちゃんで、呼吸の問題があり、受け入れてくれる病院がない中、このキングストン病院で受け入れました。現地スタッフの努力もあってなんとか改善が認められ、命をつないでいます。



また、癌の患者さんの病棟でも、抗がん剤治療をスムーズに行うべく、また病棟スタッフの感染への意識のレベルを上げるべく努力を続けています。



このような現場では、様々な困難は日常的にあるものですが、時間をかけながらも、この一年でも少し病院の機能として改善されて来た部分もあり、それがわかるからこそ私たちもまた毎日の活動を努力して参ります。

活動と医療者教育の例として、病院で一般的に行う点滴などもあげられます。難しい技術ではなくても、これにもちゃんと注意しなければ事故につながるポイントがいくつかあります。日常の何気ない仕事の中にも、きっちりと確認しながら丁寧な医療を行うクセをスタッフにもつけてもらえるよう、視覚的にも分かりやすいマニュアルなどもそれぞれの手技についても作成しています。それまでこのようなプログラムを継続してきたことにより、スタッフ間でのコミュニケーションや方向性も一致してきた事を感じています。



近年、バングラデシュでは悪性腫瘍、つまり癌の患者さんが急激に増加しています。しかしながらまだまだ癌治療に対する設備や、治療できる人材を含め、この国の医療体制は整っていません。私たちが診ている患者さんの中には、まともな治療が行われなまま、すでに数ヶ月が経って治療が難しくなってしまう方も多いのが現状です。この病院では妊産婦に対しての治療を進めてきましたが、しっかりとした診断とエビデンスに基づいた癌治療を求めるニーズがあり、その点においても病院とも話し合い、今後更なる協力体制を含む強化を行っていく方針です。日本とは異なり、まだまだ比較的簡単な処置でさえも医療資材が限られてはいますが、様々な発想で代用品も使いながら、私たちにこの現場でできる限りの医療を提供していこうと思います。



首都ダッカ ミルプール地区のスラムの調査

首都ダッカにあるスラムの医療に関するデータは大変限られており、この調査は継続して行っています。12月には日本からロータリークラブの方々の現地スラムの調査訪問の機会もあり、

実際のスラムの生活環境なども視察していただきました。

住民の生活環境は厳しく、不衛生な中でもなんとか小さな子どもを育てている母親も多い印象です。私たちの調査から、このスラムには現時点で約 4 万 2000 人が住んでおり、妊婦さんも 1600 人ほど、そして毎月約 50 人から 60 人の子どもが生まれている事がわかりました。



私たちも医療を提供する努力を続けますが、しかしながらまだまだ医療を受けている人は少なく、出産に関しても医療の介入がないまま自宅での出産が行われており、実際の妊産婦の死亡率なども不明です。私たちが以前に、病院で出産をサポートした住民からも話を聞くこともでき、その他の住人からも無理のない料金で診療をもっと受ける機会がほしいと希望する声も強くあります。

また住民の中からも、私たちのさらなるこのスラムへの医療の提供を期待し、積極的にこの調査をしっかりと手伝ってくれた人々がいました。私たちもこの期待と責任をしっかりと受け止めると共に、大きな希望を持ってこのスラムへの母子保健の強化プロジェクトを進めたいと思います。

2018 年 4 月～（継続中） 医療者育成教育 EASTWEST 病院



2017 年 6 月から看護師・医師の育成教育の場として EASTWEST 病院の教育を担当しています。主にこの病院では救命救急部や ICU の医師、看護師を中心に能力と機能強化に努めています。医師、看護師による感染症対策のチームを作り、当団体の看護師スタッフが講義から実技指導、そして現場での指導というようにしっかりとフォローアップし、現地で日本のきめ細やかであり、かつ、適切な看護技術や医療環境を伝えていきます。例えば輸液ポンプの使い方ひとつに

しても「なんとなく理解している」ということではなく、一つ一つの操作の意味を基礎から確認し、皆で知識や技術をしっかりと共有していきます。自分たちでもそれぞれに学んだ知識と実習を評価し合い、どこがよくてどこが悪かったか、などを復習しています。



基礎の実習に加えて、医療的な知識の強化も理解を深めます。このバングラデシュでの医療の問題として、医療者の基礎的な知識はあるものの、それが医療機器を扱う際にどのように関係しているかの理解がされていないということが多々あります。以下の写真は心臓から肺にかけての血流の流れを復習しています。さらにアドバンスの知識として、心臓の動きを示しながら電気的な流れを示しつつ、ICUでのモニタリングには心電図とは何か、なども理解する必要もあるため、診療現場でのモニターの見方にも触れています。



また、今年から新たに加わった看護師たちに向けて、昨年にも実施した心肺蘇生のトレーニングを行います。これは実際に患者が倒れた場面を想定したトレーニングです。私たちも彼らのトレーニングを見ながらアドバイスは行いますが、すでに昨年からのトレーニングを受けている看護師の数名はかなり蘇生技術も熟練してきており、この実習では、もっぱら彼ら自身でお互いをチェックし合い、彼らの後輩の看護師にアドバイスしながら進められています。



現地のスタッフ同士でチェックしあいながら復習を進めていく姿は、昨年には私たちには想像

できなかったもので、私たちもその光景を見てとても嬉しく、継続していく事の大切さを改めて感じるものでした。

その他の例として、患者さんのベッド移動をするときに何が必要なのか、をテーマに講義と実習を行っています。日本でも同様ですが、普段何気なく仕事として行っていることでも、実際の患者役として体験したことがあるスタッフはまれで、今回は現地のスタッフたちも実際に患者役となって、患者体験をすることでどんなベッドの移譲や移動をすれば、不安感なく安定しているのか、どんなことが患者として不安に思うのか、などを体験し、ベッド移動をする技術を見直します。



知識の確認のため、定期的に試験も実施しています。試験後にはすぐに問題の解説を行い、それぞれの部分が理解できていなかったのかを確認します。また、我々もこの試験の成績から、どの部分の知識の強化が必要かをフィードバックし、プログラムの改善に役立てます。



バングラデシュのこの病院で、新たに正式に院内の感染症対策を行う委員会が発足し、**Future Code** も正式にアドバイザーとして参加し、会議を行いました。これから一つのチームとして最終的には病院全体の感染症の予防を含む対策を行っていくための計画を話し合っています。



バングラデシュではまだまだ外傷や手術後の感染症の発症率も高く、他病院の報告の中には、約 25%の患者の創部の感染が報告されているものもあります。この感染症を減らすことは、患者の命を守ることに直結するため、非常に優先順位の高いものとなっています。



感染症の発症を減らすという目標に到達するためのステップとして、手術後や外傷の処置など、対策効果が高いと考えられる重点項目を上げながら、さらにプロジェクトの効果の検証も含めて具体的なプランを策定していきます。

手術室の使用は多くの科に渡り、麻酔科と連携しつつも一般の病棟と違うアプローチが必要です。もちろん日本ともシステムとして異なる部分もあり、また清潔、不潔の概念や、着装などもドクターから清掃員までスタッフ全員に更に徹底させねばならないなど乗り越えるべき課題は多く、まさに非常に困難な挑戦となります。それでもこの環境に対しても、時間をかけて少しずつでも前進していく事が大切です。

新たな傷の処置法も導入したいと考えており、救命救急や外科系に関わる医療者、つまり研修医からベテラン医師を中心に、看護師、アシスタントまでを対象とした講義や実習を開始しています。この講義テーマは創傷の処置についてや、術後の創の管理についての最新知識と技術です。日本では 15 年程前から少しずつ導入が始まり、今では常識となった治療法ではありますが、バングラデシュではまだまだ知られてはいません。このテーマも、院内で発生する感染症を予防する一環として進めているものであり、院内に浸透していけば患者の傷の感染を防ぐためにもとても大きな力となります。



毎朝、この病院では昨日の病棟報告を兼ねてモーニングセッションが行われています。その中で私たちは、記憶の定着を狙ってこの 1 週間で行ってきたレクチャーなどの総まとめ等を行い

ます。総まとめをして行く中でも、我々とともにこれまで学んできた現地看護師からも積極的に補足コメントや発言が出るなど、とてもいい活気が出てきたと感じています。



また、これに加えて感染症対策チームによる発表や報告もこのモーニングセッションで行われています。私たちのプログラムで一年間に渡り、研修を受けてきた院内スタッフを中心となり、問題提起や発表が行われています。このチームの「自分たちで改善していくのだ」という姿勢も大変嬉しく感じるころではありますが、それだけではなく、このモーニングセッションに参加している院内スタッフたちも、すごく積極的に意見を述べ、議論が活発に行われるようになっていきます。



その他の教育の項目には、「接遇」の改善を行っています。病院側のスタッフたちからの希望で、患者さんへの診療時の対応や態度が悪い部分を病院として直さなければならない、という意見があり、私たちに「丁寧な医療の説明と印象の改善」を行う講義をしてほしい、との依頼があったためこの講義が始まりました。そこでまずは笑顔で挨拶をすることについてレクチャー。「怖い顔で挨拶するのと、笑顔で大きな声で目を合わせて挨拶するのはどちらが良いですか？」

基本的なことかもしれませんが、そのような習慣のなかった場所では、立場を変えて考える事や体験してみることは重要なことです。

このレクチャーの講師には、昨年度からコースに参加してくれている生徒さんが手本となり、積極的に後輩たちに彼ら自身が指導を行なってくれました。



この接遇の改善の講義と実習の研修は、医療者だけでなく、事務員から掃除スタッフ、警備員までの全職員を対象に行われました。この講義も座学だけではなく、受講者がお互いに挨拶等をして良い部分を評価し合うなどの参加型のスタイルであり、和気藹々とした雰囲気の中で、皆が積極的に参加してくれました。



しかしながら講義と実習だけでは知識を現場で生かせるかはわかりません。そこでさらに病棟を巡回し、医療現場で知識や手指衛生、ベッド移乗など、現場で出会う技術も含めて確認を行います。



毎週水曜日には、今まで一緒にトレーニングを行ってきた感染症対策チームメンバー2名と共に、病棟をラウンドしています。ICU とリカバリールームのラウンドでは、彼ら自身でチェックリストを見ながら、改善すべき点をチェックします。



例えば、床にゴミは落ちていないか？目に見える汚れはないか？不要なもの、危険なものが床

に置かれていないか？臭いはないか？といったことから、医療廃棄物の分別がきちんとできているか？などをチェックして回ります。

これを始めた昔は「改善すべき」にチェックがついていたのに、今はずいぶんと改善され、チェックが少なくなってきた、と言います。

以前は医療廃棄物の分別も、毎回注意指導しなければならなかったのですが、いまではどの色に何を捨てるか？のポスターも貼られ、各自が意識して捨てていることもあり、きちんと分別して捨てられていることが増えました。病院のスタッフからも「仕事がしやすくなった！」という声が聞こえます。

ラウンドした結果を気にする病棟のスタッフに対しても、改善できる点はどこなのか？確認と指導、後日行う振り返りと指導まで感染症対策チームを中心に行います。



また、チームメンバー内にも変化が生まれています。「さらに今から色々な勉強をして資格を取得し、もっと効果的に指導できるようになりたい」という想いで、仕事を続けながら新たに医療系の資格の取得のため、学校に通う看護師も数人出てきました。

このように毎日の活動を行なっていく中で、この一年でも大きく意識が向上し、自主的な勉強に取り組む現地スタッフも増えています。そしてこの2年間の教育の中で、数名ではあるものの、医療現場のリーダーを育てることができ、小規模ながらも彼ら自身の手で後輩を育てるサイクルが始まりました。

その他のイベント等

EASTWEST 病院での職員の衛生啓発イベント

キャンパスクリーニングデイ

10月には、病院の敷地と周囲を職員で清掃するイベントが FutureCode と病院スタッフの企画で開催されました。このイベントは数ヶ月に一度行われており、全職員の衛生に対する感覚を改善する事も目的として、職員総出で行っています。日本人もバングラデシュ人も一緒になって、多くの捨てられたゴミを回収していきます。少しずつでも「自分のゴミは自分でゴミ箱に

すてる」ことから「感染の危険のある医療ゴミは責任を持って決められた手順で処理する」といった事まで、皆の意識が改善していくきっかけとなれば嬉しく思います。



手指衛生啓発イベント

また同月に、感染症対策の一環として、スタッフの手指衛生の意識向上を啓発するイベントも開催しました。病院の入り口には垂れ幕がかかり、院長をはじめ各病棟スタッフや、学生さん達も招き、各チームに分かれて、知識と技術を競います。どんな時に手洗いが必要か、どんな方法で手洗いをするかなどのクイズに始まり、皆で勉強。



さらに実際に全員で蛍光塗料とブラックライトを使ってどこが洗えていないのかを検証。



その後には、感染症対策チームによる「手指衛生ダンス」が披露され、終始会場は大盛況でした。



一番成績の良かったチームには、プレゼントが贈呈され、終了後にも参加者から「とても手指衛生の大切さがわかった」「すばらしい印象に残る企画だった。意識の向上にもつながる」などの嬉しい感想を多々いただきました。



この大盛況となった結果は、私たち日本人の努力だけではなく、現地のスタッフと一つのチームとして活動できていることや、彼らの努力があってこそのものでした。



futurecode

Japan

講演会・講義

2018年4月15日

神戸元町 Tukururu で講演会

神戸元町商店街のお店 Tukururu にて代表 大類の講演会を開催しました。

活動報告もあり、また学生部 BYCS からも新たな企画であるソーシャルビジネスとしてのハンドクリーム販売についてもお話させていただきました。



2018年4月22日

ロータリーフェローズ東京 創立50周年記念大会で基調講演

東京にて開催されました記念大会で、代表 大類が基調講演を担当させていただきました。活動報告や途上国での水の浄化事業についてお話させていただきました。



2018年6月3日

ロータリー第2650地区 京都ロータリーフェローズ総会で基調講演

京都で開催された総会で、「変化をもたらす行動人」「意欲の換気を促す行動人」をテーマに基調講演に代表 大類が登壇させていただきました。100名程の方が来場され、講演ではプロジェクトの紹介に加えて、行動する事で変えることができる現実と挑戦、そしてその意志を持つ事やその情熱に言及しており、講演後には多くの皆様から激励のお言葉を頂きました。



2018年6月8日

関西学院大学 社会学部で特別講義を担当

本年も関西学院大学社会学部にて、代表 大類が国際協力や活動について解説し、講義を担当させていただきました。行動することの意味や、常に新たな挑戦をする価値など情熱についても語りました。



2018年6月11日

兵庫医科大学医学部「レベルアップ授業」で講義を担当

医学部での講義であり、また兵庫医科大学は大類の母校でもあり、講義内容も「医師として」の仕事と使命感などにも言及しています。国境や宗教に関係なく命そのものと向き合い、更には医療のみならず、問題解決のために様々な仕事も巻き込み、本質に挑戦し続ける事の意味を話しました。



2018年9月8日

神戸海星女子学院大学にて一般講演

「行動が創り出すアイデンティティ 途上国での医療支援活動を通して」

活動報告に加えて、講演では、人生を変えた出会いや、なぜこの仕事を続けるのかなどにも触れており、現在の活動の報告のみならず代表 大類が Future Code の現顧問のシスター須藤先生との出会いと今までが語られました。



**行動が創り出すアイデンティティ
～途上国での医療支援活動を通して～**

講師 大類 隼人 (NPO法人 Future Code 代表)

神戸・関西から医療の行き届かない様々な地域へ「生きる」ということは、人や文化を育んでいく大切な活動です。しかも増える高齢化や生活習慣病や東震災を受けている国もあり。私たちは神戸・関西世界の災害・難病地域に、医療支援活動を行う活動体として認定を受けた認定NPOです。この地球に生まれた私たちが活動につなぐ「生きる権利」を活動の中心に、Future Codeは作り上げたいです。

2018年9月8日(土曜日)午後2時～3時30分(開場午後1時30分)

場所 神戸海星女子学院大学 アゼンブリホール
神戸市西区宮原2-1-1

主催 海星女子学院 カトリックセンター
お問い合わせ先 神戸海星女子学院大学 事務局 078-801-2277

Future Code
主に開発途上国における医療、公衆衛生、教育系の活動をメインとし、これまでにハイチ人難民の育成プログラムを実施、ハイチで無料検眼検査を実施するなど行っています。このプログラムでは難病難病、スラムの妊産婦及び乳児に対する母子検診強化の活動、被災地では避難所を支援期に行っており、子どもたちの健康を守る活動も行っています。またリアルタイムではマリヤ中絶と救済活動、水不足の改善活動などとしてチームの活動を行っており、2018年秋は、日本での学生教育に力を入れており、若い世代から国際人を育てるという取り組みも積極的に行っております。

Profile 大類 隼人 Hayato Ochi
外国人、教育関係者として経験を経て、元立命館大学助教、現職は、株式会社オキナ、現在NPO法人 Future Code 代表として、海外で英語・ビジネス英語を専攻し、(独語) 立命館大学マスター取得、以誠道徳実践教育センター国際教育センター 専任講師。

〒651-0088 兵庫県神戸市西区宮原2-1-22-602

2018年9月21日

兵庫県立学校 新任校長学校経営研修講座にて講座を担当

兵庫県立教育研修所にて、兵庫県の全域の高校の校長先生方の研修講座に代表 大類が「グローバル化する社会への対応」をテーマに代表 大類が登壇させていただきました。日本の学生教育においては、自身の海外での大学院での経験から、何が今のこの日本においても必要であり、グローバル化する社会で求められるものなのか、など教育論にも触れています。



2018年9月29日

関西国際保健勉強会「ぼちぼちの会」で一般講演

大阪市立総合生涯学習センターで開催された講演に代表 大類が講師をつとめさせていただきました。「途上国医療育成活動と企業ビジネス連携の展望」をテーマに、Future Code の活動紹介やバングラデッシュ、ブルキナファソで展開する日本の技術を使った新しい支援の形を紹介しました。



2018年10月6日

京都ロータリーインターアクト創立55周年記念式典にて基調講演

京都市長も参加されましたこの式典は、大人だけでなく、学生さんたちも多く参加される会であり、グローバルに活躍するには将来に向けてどのような人間がもとめられるのか、などに言及しています。



2019年2月24日

ロータリー第2720地区 社会国際奉仕部門 「国際奉仕のつどい」にて

基調講演

大分で開催されましたロータリー社会国際奉仕部門 「国際奉仕のつどい」に代表 大類が基調講演で登壇しました。約80名の方が来場くださり、Future Codeの今までの活動、そして理念の紹介や、バングラデシュでの医療支援強化を中心とした内容であり、大分では初の講演となりました。



イベント

2018年11月11日

神戸グローバルチャリティーフェスティバルにブース出展（学生部

BYCS 共同参加）

神戸中華同文学校で開催されたチャリティーフェスティバルに2018年もブースを出させていただきました。今回も学生部BYCSと共に出席しました。多くの方にご来場いただいております。



2019年2月2・3日

ワン・ワールド・フェスティバルにブースを出展（学生部 BYCS 共同参加）

関西最大の国際協力のイベントであるワン・ワールドフェスにブース出展しました。2日間でたくさんの入場者がブースに来てくださり、活動を紹介させていただきました。幅広い世代に Future Code の活動を知ってもらえるようこれからも積極的に参加してきたいと思います。



2019年3月4日

「Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム カリコム若手外交官・行政官」 歓迎レセプションに参加

歓迎レセプションが、外務省主催で東京都内ホテルにて行われ、理事の青山が参加しました。本プログラムは、我が国とカリブ共同体（カリコム）若手外交官・行政官（注）の交流を図るプログラムです。当日は、昨年に引き続き中前隆博中南米局長より歓迎の挨拶があり、その後、歓談となりました。

カリコムには我々 Future Code が支援しているハイチも含まれていることから、今後とも外務省や各国の外交官と連携を密にし、支援国（ハイチ）への活動を充実させていきたいと考えております。



その他講演会、イベント多数

Future Code BYCS (学生部の活動)

2016年に発足した学生部BYCSも今年度も新たなメンバーを加え活動しております。

2017年12月に3名がブルキナファソへ渡航、2018年11月にも2名が渡航し、現地スタッフとともに活動を行いました。現在、現地ブルキナファソの特産品（シアバター）を使ったハンドクリームを日本にて化粧品会社とともに開発を行いました。またこの初期費用を3月から5月にかけて実施したクラウドファンディングを成功させ300万円を超える資金を調達し、2019年3月よりオーガニックにこだわり高い保湿効果を持つハンドクリーム「ハダニシア」の販売が開始しました。このプロジェクトは原材料であるシアバターの購入を現地で行うことで100名を超える女性たちの雇用を創出し、またハンドクリームの売り上げの一部を医療支援として現地に還元するものです。その他、学生部BYCSの活動はハンドクリームの販売のみならず、ブルキナファソの紹介や、学生が行う国際協力について幅広く考え、興味のある学生に参加していただき、国際社会で生きる人材育成の場としても、多数のイベントや講演会の開催を行っています。

2018年11月 ブルキナファソ訪問

シアバター作りの活動への参加と医療支援の見学

ハンドクリームの主成分であるシアバターを作るブルキナファソの現場を今回は2名の学生が訪問し、実際にシアバター作りに参加しています。また、Future Codeの活動としてのマラリアの予防と啓発活動、蚊帳の配布活動、水と衛生の改善活動の見学も行っています。



・イベント・講演会等

2018年4月22日

神戸ソーシャルキャンパスにて講演会

2018年6月16日

国際NGO「NICE」の主催イベントに学生部 BYCS がブース出展

「NICE」は国内・海外95か国でワークキャンプ等の事業を展開する団体であり、その大阪・天満ガーデンにて開催された主催イベントにブースを出展しました。実際にブルキナファソを訪れたことで学んだことなどを発表しています。



2018年6月28日

神戸大学・国際人間科学部にて講演会

BYCS 新メンバーを含む5名が、当団体の活動とそこから得られる学び、そして、活動に対する想いを語りました。



2018年11月24日

TSUNAGARU フェスティバル 2018 にブース出展

大阪で初開催されたこのイベントは多くの方に来場いただき、幕を閉じました。シアバターハンドクリームの試供品も来場者に使っていただいたところ、大好評で「べたつかず、さらさらした肌になるね!」という嬉しい声を多くいただきました。



2018年11月28日

神戸市立外国語大学でグローバルキャリアセミナーに登壇

「地球が職場：グローバルなキャリアを語ろう！ー世界で活躍する企業や専門家から体験を聞くー」が開催され、BYCS メンバーがスピーカーとして参加し、シアバターのハンドクリーム事業を紹介しました。



2018年12月24日

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 参加

高校生や学生のための国際協力のイベントワン・ワールド・フェスティバル for Youth に出展しました。



その他講演・講義 多数

新聞・雑誌等メディア掲載

・新聞

2018年5月1日 神戸新聞朝刊 ブルキナファソのシアバター事業の紹介

・書籍/雑誌/その他

2018年4月「社会貢献ジャーナル」前編 後編に掲載

特定非営利活動法人 Future Code — 一人の医師の思いからすべては始まった。世界中に医療の未来を開く「鍵」を届けたい！

代表 大類の記事が掲載されました。

<https://www.dtod.ne.jp/journal/article56.php>

2018年7月 TEDxKumamoto の映像公開

昨年に大類が登壇した TEDx の映像がネットで公開されました。

<https://youtu.be/MHJRIN8doUo>

2019年1月6日 20:30～20:55 の番組「NEXT GENERATIONS CAMP」に学生部 BYCS が出演

(周波数は FM89.9MHz ・ スマホアプリ radiko でも聴取可)

FutureCode